NO.

029

社会 多様性のある職場

Diversity Is Not Enough

多様なだけでは足りない

英文の音声

レベル ★★☆ やや難 | 288語 | 熟語12個 | 目標3分 | 読んだ日 | かかった時間 分 秒

1 Today's workplaces bring together people who ❶**come from** different countries, generations and backgrounds. Many companies now describe this diversity as a strength, and with good reason: a team whose members see a problem from different angles is less likely to overlook a risk or miss a fresh idea.

2 Yet simply hiring a mix of people does not guarantee success. Employees must also feel that they belong. In some offices, newcomers who seem different are quietly ❷**given the cold shoulder**: they are not invited to lunch, and important information reaches them last. Even when no one openly ❸**discriminates against** them, such small acts can ❹**exclude them from** the conversations where decisions are really made.

3 When people feel left out, they rarely ❺**speak up**. A young employee may notice a flaw in a plan but stay silent, fearing that her opinion will not be welcomed. The organization then loses the very thing it hired her for. Research on teams has repeatedly found that groups perform best when members feel safe to ask questions and admit mistakes.

4 What can leaders do? First, they can ❻**involve every member in** important decisions, ❼**whether they are junior or senior**. Second, they should evaluate people ❽**on the basis of** what they contribute rather than where they studied or how they speak. Third, they need to ❾**be sensitive to** cultural differences. In some cultures, interrupting a superior is considered rude, so a quiet colleague is not necessarily an uninterested one.

5 Diversity does not mean that everyone will always ❿**get along with** one another. Disagreement is natural, and even useful. The real goal is a workplace where differences are ⓫**taken into account** and where everyone has a fair chance to ⓬**make a contribution to** the team's success.

語注 **diversity** 多様性 **guarantee** ～を保証する **flaw** 欠陥・欠点 **superior** 上司・目上の人 **colleague** 同僚

この英文の熟語 IDIOMS 12個｜番号は英文の中の番号と同じ。覚えたら □ に印

1 come from ~ ～の出身である □□□

出身は現在形で言う（I come from Osaka.）。came from にすると「～から来た（移動）」の意味になりやすい

例 *Our new teacher comes from Canada.* 新しい先生はカナダ出身だ。

2 give A the cold shoulder A に冷たくする □□□

冷えた肩肉を出す→歓迎しない客への扱いから、とされる。ignore / snub と同じ。受け身は A is given the cold shoulder

例 *After the argument, she gave me the cold shoulder.* 口論の後、彼女は私に冷たくした。

3 discriminate against ~ ～を差別する □□□

against＝不利になるように。discriminate between A and B（A と B を区別する）との違いが出る

例 *The law forbids companies to discriminate against older workers.* 法律は企業が高齢の労働者を差別することを禁じている。

4 exclude A from B A を B から除外する □□□

ex＝外へ。反対は include。A is excluded from B の受け身も多い

例 *Children under twelve are excluded from the contest.* 12歳未満の子どもはそのコンテストから除外される。

5 speak up 大きな声で話す；はっきり意見を言う □□□

「はっきり意見を言う」の意味でも頻出。speak up for ~（～を擁護する）

例 *If you disagree, please speak up.* 反対ならば、遠慮なく意見を言ってください。

6 involve A in B A を B に巻き込む □□□

「参加させる」というよい意味でも、「巻き込む」という悪い意味でも使う。be involved in ~ も重要

例 *The teacher involved all the students in the discussion.* 先生は生徒全員を話し合いに参加させた。

7 whether A or B AであろうとBであろうと □□□

副詞節では「～であろうと」、名詞節では「AかBか」。or not の形も多い

例 *Whether you win or lose, enjoy the game.* 勝っても負けても試合を楽しみなさい。

8 on the basis of ~ ～に基づいて □□□

basis＝土台。based on ~ と同じ意味。on a daily basis（毎日）の形も出る

例 *Students are selected on the basis of their grades.* 生徒は成績に基づいて選ばれる。

9 be sensitive to ~ ～に敏感である □□□

「（人の気持ち）に気を配る」「（刺激）に弱い」の両方。sensible（分別のある）と混同しない

例 *Her skin is sensitive to sunlight.* 彼女の肌は日光に敏感だ。

10 get along with ~ ～とうまくやっていく □□□

along＝一緒に進む。get on with ~ とも言う。get along well with の形が多い

例 *I get along well with my classmates.* 私はクラスメートとうまくやっている。

11 take ~ into account ～を考慮に入れる □□□

account＝計算。計算に入れる→考慮する。take into account ~ の語順や受け身もある。consider と同じ

例 *We must take the cost into account.* 費用を考慮に入れなければならない。

12 make a contribution to ~ ～に貢献する □□□

contribute to ~ の名詞表現。a great / an important などの形容詞が入る

例 *She made a great contribution to the success of the project.* 彼女はその計画の成功に大きく貢献した。

内容一致問題 QUESTIONS

英文を読んで、それぞれの問いに対して最も適切なものを 1〜4 から 1 つ選びなさい。

問1 第2段落で述べられている、周りと違って見える新人が受けることがある扱いはどれか。 [ ]

① 公然と給料を下げられる
② 昼食に誘われず、大事な情報が最後に届く
③ 大事な会議の司会を任される
④ すぐに管理職に昇進させられる

問2 第3段落の「若い社員」の例が示していることとして最も適切なものはどれか。 [ ]

① 若い社員は計画の欠陥に気づく力がない。
② 組織は若い社員を雇う必要がない。
③ 若い社員はいつも上司に反対したがる。
④ 取り残されたと感じると、人は気づいたことを言わなくなる。

問3 According to the last paragraph, what is the real goal of a diverse workplace? [ ]

① A workplace where everyone has a fair chance to contribute.
② A workplace where everyone thinks the same way.
③ A workplace where people never disagree.
④ A workplace where only experienced workers make decisions.

熟語チェック CHECK 意味に合う英語の熟語を書こう（答えは「熟語」のページ）

1 〜の出身である
2 A に冷たくする
3 〜を差別する
4 A を B から除外する
5 大きな声で話す；はっきり意見を言う
6 A を B に巻き込む
7 AであろうとBであろうと
8 〜に基づいて
9 〜に敏感である
10 〜とうまくやっていく
11 〜を考慮に入れる
12 〜に貢献する

背景知識 多様性（ダイバーシティ）は性別・国籍・年齢・障害の有無などの違いを持つ人々がともに働くこと。近年はそれだけでなく、全員が受け入れられ力を発揮できる「包摂（インクルージョン）」が重視される。チーム研究では、失敗や疑問を口にしても責められないと感じられる「心理的安全性」が、成果の高いチームの特徴として知られる。入試では「多様性は強みになるが、それだけでは不十分」という譲歩→主張の流れが定番。

全訳 TRANSLATION 色の太字は熟語の部分

1 今日の職場には、さまざまな国、世代、経歴**の出身の**人々が集まっている。今や多くの企業がこの多様性を強みだと言うが、それにはもっともな理由がある。メンバーが問題を異なる角度から見るチームは、危険を見落としたり、新しい考えを逃したりしにくいのだ。

2 しかし、いろいろな人をただ雇うだけで成功するわけではない。社員が「自分はここの一員だ」と感じることも必要である。職場によっては、周りと違って見える新人がひそかに**冷たくされる**。昼食に誘われず、大事な情報は最後に回ってくる。誰も公然と**差別して**いなくても、こうした小さな行為によって、**彼らは**物事が実際に決まる会話**から締め出されて**しまうことがある。

3 取り残されたと感じた人は、めったに**声を上げない**。若い社員は計画の欠陥に気づいても、自分の意見が歓迎されないのではと恐れて黙っているかもしれない。そうなると組織は、まさに彼女を雇った目的そのものを失うことになる。チームについての研究は、メンバーが安心して質問したり間違いを認めたりできるときに、集団は最もよく力を発揮することを繰り返し明らかにしてきた。

4 リーダーには何ができるだろうか。第一に、**若手であろうとベテランであろうと**、大事な決定に**全員を参加させる**ことができる。第二に、どこで学んだかや話し方ではなく、何を貢献するか**に基づいて**人を評価すべきだ。第三に、文化の違い**に敏感である**必要がある。文化によっては上司の話を遮るのは失礼とされるので、物静かな同僚が必ずしも無関心だとは限らないのである。

5 多様性とは、全員がいつも互いに**うまくやっていける**という意味ではない。意見が食い違うのは自然なことであり、役に立つことさえある。本当の目標は、違いが**考慮に入れられ**、誰もがチームの成功**に貢献する**公平な機会を持てる職場なのである。

要旨 多様な人を集めるだけでは不十分で、少数派が排除され声を上げられなければ組織は強みを失う。全員を決定に参加させ、貢献に基づいて評価し、違いを考慮する職場こそが目標である。

解答・解説 ANSWERS

問1 2 **問2 4** **問3 1**

問1 正解 2 根拠は第2段落の they are not invited to lunch, and important information reaches them last（昼食に誘われず、大事な情報が最後に届く）。よって 2 が正解。1 は Even when no one openly discriminates against them（公然と差別されていなくても）とあり、給料の話も出ていない。3 は逆に、物事が決まる会話から締め出されるとある。4 の昇進の記述はない。

問2 正解 4 段落冒頭の When people feel left out, they rarely speak up（取り残されたと感じると、めったに声を上げない）を具体化した例で、社員は欠陥に気づいても stay silent（黙っている）。よって 4 が正解。1 は may notice a flaw（欠陥に気づく）とあるので逆。2 は「雇った目的を失う」という意味の誤読。3 は黙っている例なので正反対である。

問3 正解 1 根拠は第5段落の The real goal is a workplace where differences are taken into account and where everyone has a fair chance to make a contribution。よって 1 が正解。3 は Disagreement is natural, and even useful（意見の不一致は自然で役に立つこともある）に反する。2 も違いを考慮するという趣旨と逆。4 は第4段落の whether they are junior or senior（若手もベテランも）と矛盾する。